

1 三重県戦没者追悼式



※写真提供 三重県

開催概要 (平成26年度)

歳事名：三重県戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：三重県総合文化センター 中ホール
 住所：三重県津市一身田上津部田1234
 (JR・近鉄電車・伊勢鉄道 津駅より 三重交通バス「総合文化センター前」下車 すぐ)
 日時：平成26年7月4日(金) ※例年7月上旬開催
 参列者数：約900人
 連絡先：三重県健康福祉部 地域福祉課 059-224-2256 (直通)

式次第 (平成26年度)

1. 開式のことば…三重県健康福祉部長
2. 国歌斉唱
3. 式辞…三重県知事
4. 一同黙とう
5. 追悼のことば…三重県遺族会会長、三重県議会議長、三重県選出国會議員代表、三重県市町長代表、遺族代表
6. 献花
7. 閉式のことば…三重県健康福祉部長

式辞 (平成26年度)

本日ここに、戦没者のご遺族をはじめ、ご来賓の皆様方多数のご列席を得て、「三重県戦没者追悼式」を挙行いたしますことは、誠に意義深く、ここに謹んで哀悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦で、家族を案じつつ、心ならずも戦場に倒れ、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遠い異郷の地で無念のうちに帰らぬ人となられた戦没者の方々の御霊に対して、謹んで哀悼の意を捧げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

また、ご遺族の皆様方には、最愛の肉親亡きあと、時を経てもなお癒されることのない深い悲しみを抱えながら、残されたご家族を懸命に守り、多くの苦難を乗り越えてこられましたことに対しまして、改めて深い敬意と心から哀悼の意を表します。

私は昨年11月、知事としては8年ぶりに沖縄「三重の塔」慰霊式に参加いたしました。こちらでは沖縄及び南方諸地域で戦禍に倒れた方々の御霊が約53000柱祀られており、非業な死を遂げざるを得なかった御霊が永遠に安らかなることを強く祈念するとともに、故郷三重が神宮式年遷宮により活況を呈していることをご報告し、今日の我が国の平和と繁栄は、戦争によって命を落とされた方々の尊い犠牲によって、我が国の平和や繁栄の礎が築かれていることの感謝の意をお伝えしてきました。

しかしながら、この地に慰霊碑があり、多くの方々の御霊が祀られていることを知らない子どもたちが多くなったとお聞きしております。

戦後に生まれた人が今や人口の8割を占め、1億人を突破しました。私たちは、戦争が遠くなっていくことを危惧し、今こそ、命の尊さ、絆の大切さを見つめ直し、戦争の悲惨さと平和の大切さを、次の世代にしっかりと語り継ぎ、平和な日本を築いていく責務があります。

来年、平成27年は、戦後70年を、そして沖縄「三重の塔」建立50周年を迎える節目の年にあたります。遺族会の方々とも相談しながら、シンポジウムなどの記念事業を検討しており、戦争の悲惨な実態と教訓を風化させることなく、未来を担う若い世代をはじめとする多くの皆さんに、改めて平和の尊さと大切さについて考えていただく機会にしていきたいと考えています。

今後も皆様とともに、平和としあわせにあふれ、希望と活力に満ちた国を築くため、力の限り尽くすことをあらためてお誓い申し上げます。

最後になりましたが、戦没者の方々のご冥福と、ご遺族の皆様のご平安とご健勝を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

平成26年7月4日
 三重県知事 鈴木 英敬

2 普照



基本情報

所 在： 観音堂赤須賀説教所
 住 所： 三重県桑名市大字赤須賀1999
 (JR・近畿電車 桑名駅より 三重交通バス「赤須賀」下車 徒歩5分)
 建 立 者： 赤須賀自治会、郷友会
 建 立 年： 昭和32年4月
 連 絡 先： 城東地区自治会連合会 個人宅のため記載せず

碑 文

【表】

普照

(故人名)

【裏】

大東亜戦争昭和二十年七月十七日空襲に際し
 敵弾に斃れたる者は誠に不幸同情に堪えざる
 所なり因て今回同志相計り忠魂碑建設供養と
 共に此の碑を建て、聊か其の霊を慰む

僧 忍阿書

昭和三十二年 四月

赤須賀自治會

郷 友 會